

国連大学学長
ハンス・ファン・ヒンケル

尾辻秀久 厚生労働大臣閣下、
衛藤晟一 副大臣、
そして、私のよき友人であり同僚でもあるファン・ソマビア ILO 事務局長、
ご来場の皆様

まず初めに、東京の UN ハウスにある国連大学にいらしていただいたことに感謝申し上げます。若者の未来に焦点を当てて考えていくという高尚な目的のために皆様をお迎えできて光栄です。

我々の今日、明日の課題をコフィ・アナン国連事務総長の言葉を借りて表現すると、
・「グローバル化：すべての人が利益を享受する」、そして
・「複雑な問題には単純な回答はない」です。

皆様をがっかりさせてしまったかもしれませんが、我々に対処しなければならない現実の複雑な問題があるとき、我々は時間をかけて本物の回答を得る努力をしなければなりません。これは、我々の課題である、すべての人、特に次世代が利益を享受するグローバル化の実現（「グローバル化と若者の未来」）にも当然あてはまります。

グローバル化がこれほどに複雑で、ややもすると議論が分かれている概念であることから、まさに当てはまるわけです。グローバル化は同時にイデオロギーであり、予定されていることであり、過程でもあるからです。グローバル化に対処しようとすることは、影と小競り合いをしたり、シャドー・ボクシングをしたりするのと似ています。世界のグローバル化は、人によりいろいろ異なることを意味するようになりました。良い意味もあれば悪い意味もあります。ですから、意味のある議論をするために、我々がグローバル化というときに意味するものを初めに明確にしておかなければなりません。

グローバル化という言葉を手順整然と理解するひとつの方法は、その多元的性格を見ていくことです。言い換えれば、その構成要素に分解してみることです。ひとつは地理的な視点で、これは根本的なものですらあるのかもしれませんが。これは、場所と距離、それに各地の特徴・特性、出来事のあった現場や状況に基づくものです。

我々にはお馴染みの歴史上の過程である探検、発見、植民地化だけでなく、通勤、移民、人口変動と都市化、立地論と人口の地域バランス、雇用、住宅政策、食糧計画などでも地理からのアプローチをよく使っています。我々がグローバル化の地理的・歴史的な性格を

理解し、適切な文脈の中にあてはめるやいなや、公平な立場などというものは存在しないことがわかります。結局のところすべての土地は個別であり、独自の資源、可能性、課題、掴み取るべき機会があるからです。

この他のグローバル化をみる主な視点は、経済、文化、社会そして政治です。今行われているグローバル化の過程に関する議論や分析では、これらの視点が、個々に、あるいは複数の視点を組み合わせた形で中心的役割を果たしています。しかしながら、たいていの場合、経済に関する視点が、他のすべての視点を押しつけるばかりに最も重視されています。これでは、我々が現実に関わりつつあることを理解する力が大きく阻害されてしまいます。

今も将来も公平な立場がないとしても、我々はグローバル化の過程をより公正にするための努力をする義務を負っています。何が公正であるかについては、議論の余地がありません。しかし、最低限の条件は、公正なグローバル化は、現在、そして未来のすべての人に利益をもたらすべきであるということです。こうしたグローバル化でより安全な世界やすべての人がより良い生活を送れるようにすることが可能となるでしょう。このような世界を実現するため、現在大きく疎外されている人々の市場アクセスを改善する努力をしなければなりません。品物、資本、知識そして人の移動に関する我々の規制をより公正で均衡のとれたものとするために見直すべきです。品物や資本の移動の自由化をこんなに主張しておきながら、人の移動に関して主張しないのはなぜでしょう？

そうです、我々は、矛盾に満ちた世界に住んでいるのです。この世界は、大きな較差にも特徴付けられています。ここでいう大きな較差とは、我々に選択肢があるときいつでも、我々がほしいというものと、実際にすることとの間にある差のことです。質というより、量の世界です！

我々の時代の最も重大な矛盾点は、史上これほど豊かであったことはないにもかかわらず、いまだに人類の3分の1は極貧ともいえる厳しい状況の生活を送っています。我々はこれほど豊かであったことはないのに、自身を貧しいと思っています。世界の貧しい人々の状況を変えるための力を一番持っている人達は、自身が貧しすぎて世界の貧しい人々の生活を変えることはできないといつも言っています。

いたるところで GNP は増大しています。しかし、アフリカでは GNP が 1980 年代の水準よりも約 10% 下回っています。実際、最も悲惨な矛盾のひとつは、アフリカがとても豊富な天然資源に恵まれているながら、裕福な大陸ではないことです。それでは、どうしてこのような状況になっているのでしょうか？ これに対処するために我々に何ができるのでしょうか？ そして、アジアは貧困から逃れていないことを忘れてはいけません！ 結局のところ、世界の人口の半分以上はアジアに住んでいるのです。割合で見ると貧困の問題は深刻でないようにみえますが、量で見るととても深刻です。ですから、我々はグローバル化をより公正にし、若者が利益を享受できるようにするためにできることはやらなくてはなり

ません。

アジアは巨大で多様な大陸です。機会にあふれていて、人口がとてつもなく集中し、人口密度の高い、巨大都市などに特徴付けられます。その点で環境問題が非常に重要になっています。そして、我々とともに持続不可能な経路を進んでいます。我々がもし現在のやり方の開発を継続するとどうなるでしょう。例えば、これには合計で人類の3分の1以上を占めるインドや中国の生活レベルの向上も含まれます。そうすると、我々は必要な天然資源を確保するため、すぐに2つか3つの地球のような惑星が必要となります。これが、火星探索の背後にある主要な理由でしょうか？ そうとするなら、火星の資源は誰のものでしょうか？ いつ、この探検が成功するのでしょうか？ もうひとつの南極大陸が見つかるのでしょうか？

我々の進路を見直す時が来ました。我々は本当にこのようなことすべてが起きてほしいと思っているのでしょうか？ これは我々が子どもや孫に残すべき世界なののでしょうか？ これほど経済成長に関して知識があるのに、経済学者たちはいまだに軟着陸させる開発モデルや均衡させるモデルをつくっていないのはなぜだろう？ 現在のモデルは量よりも質を重視しているのだろうか？

いつになっても労働力が安価なところはあるであろうが、我々は、現在のように底辺に向かっている競争を続けたいのだろうか？ これまで、我々はこのままいったらどうなるのか考えたことがあったらだろうか？ これまで、我々は真剣に影響を分析したことがあったらだろうか？ 現在は増加している世界の人口が減少するなかで、でもあと何年くらい増加するのか？ 我々は、本当に仕事のあるところに地球規模で人を移動させ続けたいのであろうか？ それとも逆に人のところに仕事を移動させることはできるのか？ ばらばらで、ほとんど気付かれないような道筋で現実には起こっているのは何であるのか。これらの経済行為は社会や安寧にどのような影響をもたらすのか？ 進歩と泰平を最適に結び付けるにはどうすればよいのだろうか？ 政策を練る前に再考を要する課題がたくさんあるものです。

世界委員会の報告「公正なグローバル化：すべての人に機会を創り出す」は、いろいろな関係者や専門家はもとより世界中の市民の間での対話の発端です。報告の主旨に幅広い支持がありました。国連大学とILOは厚生労働省と協力して7月1日に「共生型地球社会を求めて-激動する世界における公正なグローバル化」を開催しました。そのシンポジウムをILOの堀内代表と一緒に準備した高橋教授が、今日明日の議論にそのシンポジウムの結果を引用することになるでしょう。世界委員会の共同議長であるフィンランドのハロネン大統領が最近、国連デーにUNハウスで行った演説で強調したように、「公正なグローバル化」報告は終着点ではなく、一連の過程の始まりなのです。私はソマビア事務局長が「公正なグローバル化とディーセント・ワーク」に関して今回、どんなことを言うのか楽しみにしています。

ご清聴ありがとうございます。